

1 取組名称

全学横断による未来型福祉教育の実施
－教育現場における障がい者に優しい福祉空間モデルの実現－

2 取組組織等

11名

(都市教養学部・人文・社会系・社会学コース)

岡部卓教授、副田あけみ教授、稲葉昭英准教授、長沼葉月准教授

(都市教養学部・理工学系・機械工学コース)

吉村卓也教授、長谷和徳准教授

(都市環境学部・建築都市コース)

吉川徹教授

(システムデザイン学部・ヒューマンメカトロニクスシステムコース)

久保田直行准教授、武居直行准教授、舘山武史助教

(健康福祉学部・理学療法学科)

新田収教授

3 取組実施代表者名

都市教養学部・人文・社会系・社会学コース・社会福祉学専攻・教授・岡部卓

4 取組期間

2年間（平成22年度～平成23年度）

5 取組の概要

学部低学年次生を対象に教養教育の一環として、領域横断的な新しい形の全学的な福祉教育プログラムを提唱し、福祉の実践を経験して理解を深めると共に身体的なハンディを有する学生（以下障がいのある学生）が、そのハンディを意識することなく健常学生と同様に授業に参加し、対等に討論しあえる「大学教育現場における障がい者に優しい福祉空間モデルの実現」を目指す。

授業は座学及び演習形式で実施され、座学（全6回）では社会福祉学、福祉工学および医療に携わる教員が福祉政策・臨床、福祉工学、福祉医療の基礎およびその有機的な結びつきを講義し、演習（全9回）では各授業で与えられるバリアフリー化のテーマの解決にすべての学生が共同して当たる。初年度は、ボランティア学生を対象に「首都大学バリアフリーマップの作成」に取り組む。同時に視覚・聴覚・肢体等身体に障がいのある学生を対象にした「障がいのある学生の授業参加支援」と平行して実施する。

初年度（H22）にはまず実験的な試みとして、車椅子、電動車椅子、および聴覚支援システムを導入して、学内バリアフリー度調査を中心に授業の実践及びフィールドワーク等の予備実験を行う。バリアフリーマップを成果物として、本学のHPにアップロードするところまでを計画する。

最終年度（H23）にはこれらの実施内容を精査し、H23年度前期の基礎ゼミで上記内容を実験的に実施し、本学の福祉に関する代表的な授業のひとつとしてH24年度に一般学生に正規の授業として恒常的に提供するために、授業としての形態を整える努力を重ねる。

6 事後評価での総合評定

目的はほぼ達成された

7 事後評価に関する教育改革推進事業提案審査会での主な意見

- ・本学における分野横断型バリアフリー化教育の第一歩を踏み出すことができた。
- ・バリアフリーマップ作成時のチェックリストを共有できれば、全学的な教育改革につながるのではないかと。